

まちの話題

新型インフルエンザに備えて

新型インフルエンザについての講習会が11月19日、生涯学習センターで行われ、小郡市、大刀洗町、久留米市北野町などから医療機関関係者、教育関係者など約240人が参加しました。

講習会は、小郡三井医師会、歯科医師会、小郡警察署、三井消防署、県久留米保健福祉環境事務所、小郡市、大刀洗町、久留米市（北野町）で構成される小郡三井健康危機管理対策協議会により行われました。



講習会では、「新型インフルエンザの現状と今後の対策について」というテーマのもと、医師会により説明が行われました。また、感染予防策や、感染者が発生した場合の対応などについて市や保健福祉環境事務所と議論を行いました。

おしごとづくりまで

11月21日、平安市長をかわいいうちが訪問しました。

訪問したのは、麻生学園アスター幼稚園（伊藤満子園長）の園児たちで、園児から園児が描いた市長の似顔絵とシクラメンをプレゼントし、市民の代表として働く市長を慰労しました。



今日は何でもここにきたのかと先生に聞かれた園児たちは「勤労感謝の日」と答え、あいさつしました。

「何の仕事をしていますか」「好きな食べ物、色は何ですか」などの質問に、市長は丁寧に答えていました。また、市長からの「今どんなことをしているの」などの質問に対して、園児たちは元気に答えていました。

この園児たちの訪問は日頃の緊張を和らげるものとなりました。

きちんと分けて出します！

11月21日、小郡幼稚園でリサイクルについての出張教室が行われました。出張教室は（有）共栄資源管理センター小郡がごみの分別への意識を高めるために3年前から行っています。

出張教室では、ごみの分別の仕方や出し方について、実際に家庭から出されたペットボトルやビンを使った授業が行われました。ごみの分別の仕方や出し方をしっかり学んだ園児たちは「ペットボトルやビンは中を洗って捨てます」と宣言しました。

最後に、ごみを収集しているパッカー車についての説明が行われ、初めて見るパッカー車の内部や間近で見る回収の光景に驚きの声を上げました。

（有）共栄資源管理センター小郡の亀崎さんは「今回学んだことを手伝いなどで活かしてもらい、ごみをきちんと分けて出すという意識が広がってくれば」と話しました。



小さな国際交流

11月25日、小郡幼稚園でN-I-L-Sの生徒との交流会が行われました。

この交流会は小郡幼稚園が人と関わる力を育てるために、おごり国際交流協会の派遣事業を利用して行われたものです。

N-I-L-Sから中国出身の留学生4人と先生1人が訪れ、交流会では日本語で自己紹介をしたり、園児に中国語でのあいさつを教えたり、一緒にダンスをしました。最後に、園児の育てたイモを使った出来立ての焼き芋を並んで食べ、秋の味覚を味わった後、一緒にグラウンドで走り回ったりするほど、交流を深めました。



▲一緒に焼き芋を食べ交流を深める園児と留学生

オリンピックがやってきた



11月22日、小郡市体育協会発足40周年記念式典記念フォーラム「みんなのオリンピック」が町の街にオリンピッククがやってくるくが行われました。記念フォーラムでは、

出演したオリンピックの城彰二さんと伏見俊昭さんからオリンピックにまつわるクイズが出された他、城さんによる反応を高めるトレーニングが行われました。

「挫折」について話が及ぶと、城さんは「目標・夢を明確にし、どうやってたどりつくのか考えることが必要。夢に向かい、一生懸命努力すれば乗り越えられる。」と、伏見さんは「挫折は長い人生の中で限りなくある。高い所に目標を持ち続けることで、苦難や逆境は乗り越えられる。」と語りました。

地域の垣根を越えて

11月28日、筑紫野市の筑紫南コミュニティセンターで筑紫野市・小郡市の垣根を越えた安全安心まちづくり合同パトロールの出発式が行われました。

出発式には、周辺地域のパトロール団体、少年補導員、小郡・筑紫野市、小郡・筑紫野警察署の延べ140人、青パト10台が参加しました。

出発式では、筑紫野警察署の藤原健一署長が、「行政には管轄がありますが、犯罪には管轄はありません。地域の垣根を越えて協力していく必要があります。」と連携の重要性を訴えました。

その後、希みが丘の大淵区長が出発の合図を行い、それぞれの地区のパトロールへと向かいました。

大淵区長は「この出発式を機に、防犯情報の共有・住民のパトロールの拡大など、小郡市と筑紫野市の連携を深め、行政と警察および地域住民が一体となった安全安心のまちづくりを進めていきたい。」と話しました。



これからの図書館の役割とは



▲講師の長尾真さん

11月30日、総合保健福祉センターあすてらすで、三市一町図書館協力協議会20周年記念講演会が行われました。

三市一町図書館協力協議会とは久留米市・鳥栖市・小郡市、基山町で県域を越えた連携協力を行うことを目的に発足した協議会です。

講師は、東京の国立国会図書館長の長尾真さんで「これからの図書館活動」というテーマでお話がありました。

今、世の中はインターネットで色々な情報を手に入れることができるようになってきているので、これからの図書館はただ本を貸し出すだけではなく、住民の生活、仕事、自治体、産業など各分野の課題解決を支援する相談・情報提供の場所になっていくことが期待されていることと、学校との連携で、より効果的に青少年の読書活動の支援ができることなどを話されました。

社会を明るくする運動作文コンテスト表彰式

12月2日、第2

回小郡市「社会を明るくする運動」作文コンテスト表彰式が市役所で行われました。

今年は、市内の小・中学校から6

25作品の応募があり、その中で

小学生の部で最優秀賞を受賞した松田汐利さん(東

明館小学校5年)と中学生の部で最優秀賞を受賞した為数美智さん(小郡中学校

2年)が作品を朗読しました。

入賞者(敬称略)

○小学生の部

最優秀賞 松田汐利(東明館小5年)

優秀賞 山下万柚子(御原小5年)

久保山晴加(東野小5年) 平田楓(三国小6年)

下田理子(のぞみが丘小5年)

村上末紗(大原小6年)

○中学生の部

最優秀賞 為数美智(小郡中2年)

優秀賞 濱田栞奈(立石中2年)

松永祐実(小郡中2年) 鶴本真唯(宝城中2年)

古賀三奈子(宝城中2年)



高松凌雲資料展示準備活動開始



高松凌雲は、天保7(1836)年現在の小郡市古飯に生まれ、23歳の時に医師を志して故郷を後にします。江戸幕府の奥詰医師に任命され、その後フランスへ行き、最新の医学を学び、西欧博愛主義と赤十字運動に触れ、箱館戦争において赤十字運動を実践しました。東京に戻り仲間と同愛社を設立し、貧しい人々を対象に無料診療を始めます。博愛精神に基づく医療活動を実践し、多くの人命を救いました。

このような高松凌雲の志と生き方を学び、次代に伝えるために、高松凌雲顕彰会は高松凌雲関係の資料を、小郡市総合保健福祉センター「あすてらす」内に展示する準備活動を始めました。会の方は「平成23年が高松凌雲の生誕175年に当たります。それまでには展示・公開をしたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします」とのことです。

◎問い合わせ先 高松凌雲顕彰会事務局
(宮本信弘 ☎75・7590、森幸治郎 ☎75・4001、佐々木康彦 ☎72・5147、高原信博 ☎73・4661)